

感染症情報発生動向調査速報

平成24年第17週 平成24年4月23日（月）～平成24年4月29日（日）

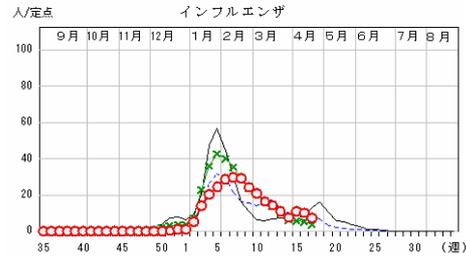
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第17週の報告数は518人で、前週より195人少なく、定点当たりの人数は7.40であった。

年齢別では、10～14歳（144人）、8歳（49人）、15～19歳（45人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、対馬保健所（19.67）、五島保健所（12.80）、県北保健所（9.00）が多かった。

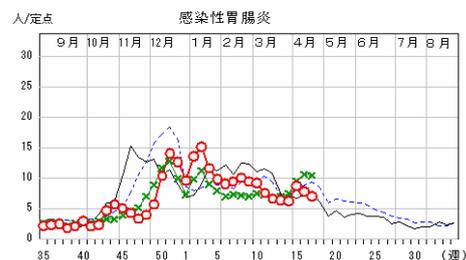


（2）感染性胃腸炎

第17週の報告数は311人で、前週より32人少なく、定点当たりの人数は7.07であった。

年齢別では、1歳（62人）、2歳（52人）、3歳（31人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（12.40）、長崎市保健所（11.10）、西彼保健所（9.00）が多かった。

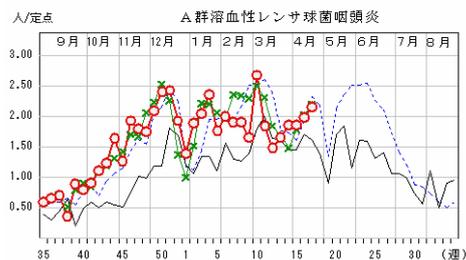


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第17週の報告数は95人で、前週より8人多く、定点当たりの人数は2.16であった。

年齢別では、2歳（14人）、4歳（13人）、3歳（12人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県央保健所（5.00）、西彼保健所（4.50）、長崎市保健所（3.20）が多かった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

長崎県における第17週の報告数は518人で、前週より195人減少して、定点当たりの人数（7.40）は前週（10.19）を下回り、県全体でも注意報レベルの基準値「10」以下となりました。五島地区では増加がみられ、他の全ての地域で患者数は減少し、落ち着きをみせていますが、定点当たりの報告数は全国に比べ、2倍ほど高い数値です。五島地区では注意報レベル、対馬地区では依然として警報レベル（19.67）にあります。

第1週から5月1日までの間に、県下の幼稚園や保育所、小、中および高等学校等において、5校（園）が臨時休業、104の学年閉鎖及び173の学級閉鎖が報告されています。

当研究センターに搬入された患者検体に関する4月分の検査では、全体の9割からB型の遺伝子が検出されており、臨床現場における診断キットによる結果でも大半の地域でB型が主流となっているようです。また、昨年の流行の推移からうかがえるように5月のゴールデンウィーク前後に小さな流行が認められる年もあることから、まだまだ油断は禁物です。B型の今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。また、体調に異変を感じたらできるだけ速やかに近隣の医療機関を受診しましょう。当疾患に罹患しても抗インフルエンザ薬の普及により欠席日数が少なくなっているようです。解熱してもしばらくはウイルスが排泄されていますので、他の人にうつさないためにも十分な休養をとりましょう。ゴールデンウィーク中には行楽地等、人ごみの中に出かける機会も増えると思いますので、外出、帰宅時にはマスクの着用、うがい、手洗いの励行などによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

県内の保健所別定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況(インフルエンザ)
長崎県(2012年第17週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
佐世保市	5.91	-	8.73	-	8.55	-	5.27	-	10.91	○	16.45	○
長崎市	8.00	-	10.88	○	13.12	○	10.53	○	14.18	○	14.06	○
壱岐	-	-	1.00	-	1.67	-	2.00	-	3.67	-	7.33	-
西彼	8.33	-	8.50	-	8.33	-	4.33	-	8.50	-	13.67	△
県央	6.10	-	9.10	-	10.50	△	7.70	-	12.00	○	11.90	○
県南	4.38	-	6.88	-	7.63	-	5.50	-	10.13	○	22.13	○
県北	9.00	-	9.25	-	11.50	△	13.25	△	19.25	△	22.25	△
五島	12.80	△	8.80	-	6.00	-	4.40	-	3.80	-	2.00	-
上五島	4.00	-	11.67	△	8.00	-	4.33	-	3.67	-	6.33	-
対馬	19.67	○	38.67	○	44.00	○	15.33	○	14.33	○	20.00	○
長崎県	7.40	-	10.19	△	11.00	△	7.49	△	11.06	△	14.26	△

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

- :警報レベル
- △:注意報レベル
- :警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

【感染性胃腸炎】

長崎県における第17週の報告数は311人で、前週より32人減少し、定点当たりの人数は7.07となり全国定点当たりの人数10.54を若干下回っています。対馬地区を除く地域で報告が上がっており、今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【A群溶血レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第17週の報告数は95人で、前週より8人増加し、定点当たりの報告数は2.16でした。上五島地区以外で報告があがっています。報告数の変動が大きく、前年に比べて長崎県下における報告数は増加傾向にあり、注意が必要です。

本感染症の好発年齢は5～15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1～4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1～2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを行って、感染防止に努めましょう。

